



平成22年度文部科学省委託事業
青少年体験活動総合プラン（子ども・若者育成支援のための体験活動推進事業）

地域連携型長期自然・生活体験 in 信州 「やさか長期自然体験」



財団法人育てる会

はじめに

本調査研究は、自然豊かな農山村において、地域の文化や人材を取り入れた、地域連携型長期自然・生活体験活動を実践し、参加した青少年の変容を考察したものです。

多様な発達段階にある児童生徒期において、自然体験や文化体験、生活体験等の体験を積むことは、心身の健全な成長を図るために有効な手段の一つとして考えられ、また、そうした活動を展開するに適した農山村には、豊かな自然環境だけでなく、日本古来の伝統と文化も保存されています。

青少年がこうした要素に触れることは、今後益々国際化が進む中で、他国を理解する姿勢の礎となり、日本人として国際社会で活躍するために必要な能力の醸成に繋がると考えられます。

さらに、最近の青少年においては、人間関係が希薄になりやすい地域社会での生活や、集団生活体験の不足等が一要因となり、人との関わりが不得手であったり、協調性や他人への配慮心といった社会生活を送る上で重要な能力が欠如しがちな青少年も見受けられ、そうした能力の欠如が不登校や青年期におけるニート問題等の青少年の課題に繋がる一因とも考えられます。

そこで本調査は、自然豊かな農山村の自然や文化を取り入れたプログラムを、地域の人材を活用して実施し、日本の農山村に残る“日本人の礎”を青少年に体験させると共に、長期にわたる集団生活体験を通して、基本的な生活習慣と協調性や互いを尊重する心等を育むことを目的として実施致しました。

最近では、農山村に居住する青少年の生活環境も変化し、こうした体験が農山村の青少年にも必要となっています。全国の多くの子ども達に体験の場を提供するためにも、本調査報告書が、各地の体験活動推進の一助となれば幸いです。

平成22年12月

財団法人育てる会

I	調査の概要	3
1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
	(1) 事前運営会議	3
	(2) 事前研修会	3
	(3) 実践活動	4
	(4) 調査方法	7
II	調査の結果	8
1	調査票による態度観察結果と考察	8
	(1) はじめに	8
	(2) 指導者からみた態度観察調査	8
	(3) 参加者自らの自己分析調査	13
	(4) 活動アンケートから	14
2	保護者の聞き取りから	15
3	子ども達の日記から	15
4	子ども達の感想文から	16
III	活動のあり方と提言	17

I 調査の概要

1. 調査の目的

児童生徒期（小中学生）を対象とした、夏休み長期自然・生活体験活動（15日間）を実施し、参加者の活動前後の行動観察や自己分析調査等を検証することで、効果的な活動プログラムの内容や地域との連携のあり方等を調査することを目的とする。

2. 調査の内容

（1）事前運営会議

調査方法や実施プログラムの企画・立案、活動時の現地視察及び指導、実施後の検証を行うために、事業運営委員会を組織し、事業運営会議と現地視察及び活動指導を年5回実施した。

【委員名簿】

委員長 時川郁夫（私立森村学園初等部教諭）

稲泉博己（東京農業大学国際食料情報学部国際バイオビジネス学科准教授）

陶 慧（日本大学生物資源科学部食品生命学科専任講師）

石川雄三（長野県大町市八坂地区猟友会代表）

中村和正（長野県大町市教育委員会生涯学習課八坂公民館）

その他活動指導者2名、事務局4名

【実施日時】

会議名	月日	開催場所	会議内容
第1回事業運営会議	H22/7/1	日本青年館会議室 （東京都新宿区）	事業全体説明、活動プログラム検討 調査票（アンケート）検討 等
第2回事業運営会議	H22/7/7	やさか野外活動センター （長野県大町市八坂）	事業全体説明、地域プログラムの立案 実施地域フィールド調査 等
現地視察及び指導	H22/8/10 ～11	やさか野外活動センター （長野県大町市八坂）	事業実施状況視察、地域協力者との面談 活動指導 等
第3回事業運営会議	H22/10/26	日本青年館会議室 （東京都新宿区）	活動報告、アンケート結果の考察 報告書内容の検討 等
第4回事業運営会議	H22/11/29	日本青年館会議室 （東京都新宿区）	最終考察、総合考察の作成 報告書原稿の確認 等

（2）事前研修会

活動をサポートする外部リーダーを対象に事前研修会（事業目的やプログラム内容、観察する際の注意点や評価方法、安全管理等）を実施すると共に、参加者に対するオリエンテーションを実施した。

会議名	月日	開催場所
事前研修会及び活動オリエンテーション	H22/7/11	国立刈苅ノック記念青少年総合センター

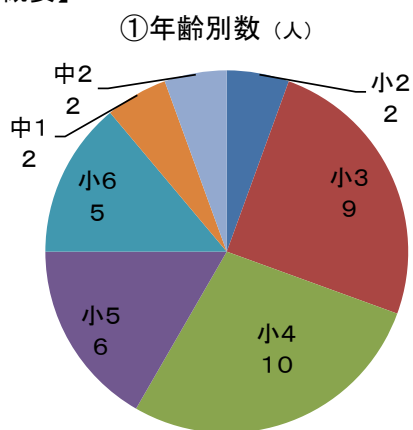
（３）実践活動

長期自然・生活体験を通して、どのように青少年が変容し、また効果的な活動プログラムや地域との連携の在り方を探るために、夏休みを利用して地域連携型長期自然・生活体験活動を実施し、指導者による参加者の態度観察や参加者自身による自己分析調査等により調査データを収集した。

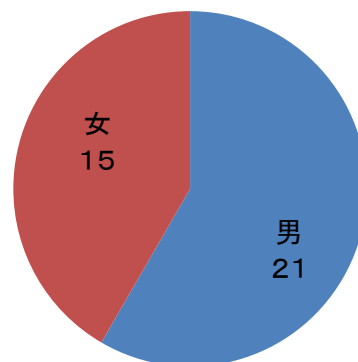
【活動場所・期間・参加者数・指導者数】

プログラム名	活動場所	期間	参加者(人)	指導者(人)
やさか長期自然体験活動	長野県 大田市八坂	H22/7/30 ～8/13	36	24 (講師等を含む)

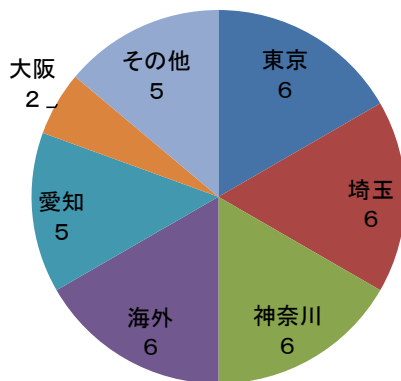
【対象者の概要】



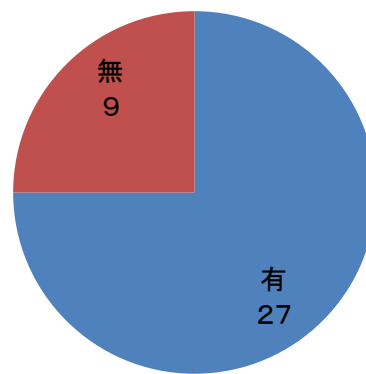
②男女別数(人)



③対象者の出身地別数(人)

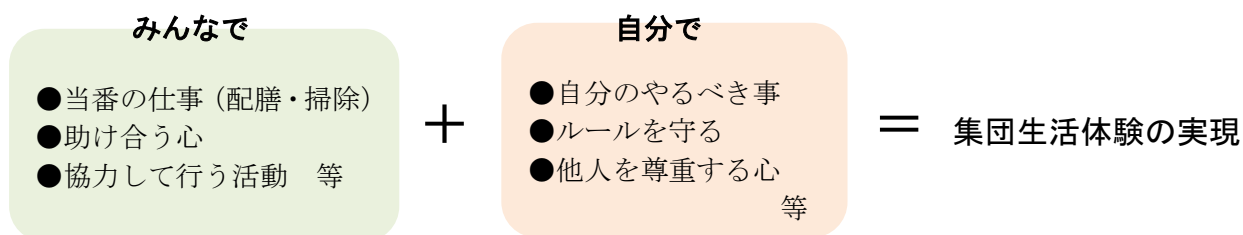


④体験活動への参加経験の有無別数(人)



【実践活動概要】

活動には地域の文化・自然、人材を活用したプログラムを組み込み、活動期間中は野外活動センターでの集団生活体験と、地域一般家庭でのホームステイを取り入れて、地域と連携した活動となるように配慮した。



(活動内容)

月 日	内 容	活動地・宿泊施設
7/30	AM：集合、移動、友達作り PM：湿原ハイク、竹の箸作り、全体ミーティング	唐花見湿原及び山荘周辺 やまなみ山荘泊
7/31	AM：地域内オリエンテーリング（地域の発見） PM：風景スケッチ大会、畑での野菜の収穫、発見の発表	八坂地区内 やまなみ山荘泊



8/ 1	AM：川遊び（溪流遊び、釣り） PM：飯盒炊飯と古民家宿泊（水車小屋や囲炉裏農家）	金熊川、ならの森 古民家泊
8/ 2	AM：キャンプ片づけ、自由活動 PM：選択活動（竹細工、紙すき、和太鼓）	やまなみ山荘周辺 やまなみ山荘泊



8/ 3	AM：鷹狩山ハイキング PM：登山班とキャンプ班に分かれて活動 （山岳博物館見学、火おこし練習）	鷹狩山、山岳博物館 山荘周辺 やまなみ山荘泊
8/ 4 ～ 8/ 5	【キャンプ班】 8/4 AM：テント設営講習 PM：一泊キャンプと自炊活動、ナイトハイク 8/5 AM：自炊活動、片づけ PM：選択活動（棒まきパン作り、竹細工、水遊び） 【登山班】 北アルプス爺ヶ岳登山	ならの森、山荘周辺 北アルプス爺ヶ岳 キャンプ泊 やまなみ山荘泊 山小屋泊



8/ 6	AM：そば打ち PM：選択活動（水遊び、竹細工、紙すき）、箱膳作法	アキツ公民館、山荘周辺 やまなみ山荘泊
8/ 7 ~ 8/ 8	【上級キャンプ班】 8/7 AM：キャンプ準備 PM：女犬原キャンプ、自炊活動、星空観察 8/8 AM：キャンプ片づけ、岩魚養殖場の餌やり 【漁師体験班（ふて針漁）】 8/7 AM：キャンプ準備 PM：川手地区キャンプ、ふて針設置、自炊活動 8/8 AM：キャンプ片づけ、ふて針回収 【全体】 8/8 PM：ふて針漁での獲物を調理、農家入り	女犬原キャンプ場 川手キャンプ場 犀川、山荘周辺 キャンプ泊 農家泊



8/ 9	一日農家ホームステイ（竹細工、わら細工、夏野菜の収穫） （ブルーベリー摘み、餅つき、おやき作り、芋掘り）	農家周辺 農家泊
8/10	AM：ホームステイ先より山荘に移動、農家新聞作成 PM：自由活動（冒険コースハイク、木の実のクラフト等）	山荘周辺 やまなみ山荘泊



8/11	AM：猟友会の話、鹿の角を使ったクラフト、鹿汁作り PM：選択活動（和太鼓、竹細工）、本音ミーティング	山荘周辺 やまなみ山荘泊
8/12	一日ウォークラリーとプルーン狩り、お別れ会、作文書き	笹尾プルーン団地 やまなみ山荘泊
8/13	AM：荷物整理、大掃除、ハガキの交換 PM：山荘出発、移動、解散	山荘周辺



(生活リズム)

A M		P M	
6 : 3 0	起床、着替え、洗顔	1 2 : 0 0	昼食
7 : 0 0	朝のつどい (挨拶、体調チェック、予定確認) (体操、自然の話、散歩)	1 2 : 3 0	片づけ、食休み
		1 3 : 3 0	活動開始
		1 5 : 3 0	おやつ
7 : 3 0	朝の分担仕事 (動物の世話、朝食配膳、掃除)	1 6 : 3 0	活動終了
		1 7 : 0 0	入浴
8 : 0 0	朝食	1 8 : 0 0	夕食
8 : 3 0	片づけ(食器下洗い、台拭き) 休憩、荷物整理	1 8 : 3 0	片づけ
		1 9 : 3 0	夜のプログラム又はミーティング
9 : 3 0	活動ミーティング	2 0 : 3 0	日記書き、消灯準備
1 0 : 0 0	活動開始 ※学習時間の場合あり	2 1 : 0 0	消灯
1 2 : 0 0	活動終了	※代表的な一日の流れです	

(4) 調査方法

【評価方法とその考え方】

対象者の活動による変化を計るため、初日・中日・最終日の三つの時間ポイントを設定し、その時点での対象者の様子を6段階で評価した。

例：出された食事を残さず食べる

1	2	3	4	5	6
(←-----→)					
はい			いいえ		

また、変化の割合を数値化するため、選択肢1～3を質問に対するプラス評価、選択肢4～6を質問に対するマイナス評価として分類した上で、初日・中日・最終日の差異については、0を変化なし、+1以上をマイナス評価、-1以下をプラス評価とした。

例：回答項目が初日(1)中日(3)の場合 =+2 (「はい」から「いいえ」に転じたのでマイナス評価)
 " 初日(3)中日(1)の場合 =-2 (「いいえ」から「はい」に転じたのでプラス評価)

【調査の種類】

1. 指導者からみた態度観察調査

この調査は、指導者の対象者観察によって参加者の態度を数値化し、その変容を計るもので、6項目(食事、生活習慣、体力健康、友人関係、自立、活力)に分類した30問の質問を用いた。

尚、個々の指導者の主観による干渉を極力除く為、調査票の記入にあたっては担当指導者が記入後、全指導者により協議を行って決定した。

2. 参加者自らの自己分析調査

参加者自らが自分の考えや行動を振り返り、質問に答えながら数値化するもので、4項目（意欲、忍耐、他者との関わり、生活）に分類した27問の質問を用いた。ただし、対象者に小学校低学年も含まれていたことから、この調査については初日と最終日の二つの時間ポイントだけでその変容を調査した。

【その他の調査資料】

最終日に振り返りのためのアンケート調査を実施し、今後の企画立案に生かすため、細かい活動プログラムの嗜好性や終了後の満足度等を調査した。

その他、保護者の聞き取り調査も実施し、活動の総合考察に生かした。

Ⅱ 調査の結果

1. 調査票による態度観察結果と考察

(1) はじめに

本調査の対象者は、小学2年～中学2年までの計36名であった。男女別人数は男子21名、女子15名で、こうした体験活動への過去の参加経験は、経験あり27名、経験なし9名であった。

調査票の分析においては、項目別分析に加えて、男女別、経験別、学年別による違いを数値化し分析した。尚、学年別については、対象人数が少数の学年もあったため、人数比と発達段階を考慮し、小学2年～3年グループ、小学4年～5年グループ、小学6～中学2年グループの三つに分類して、その傾向を比較した。

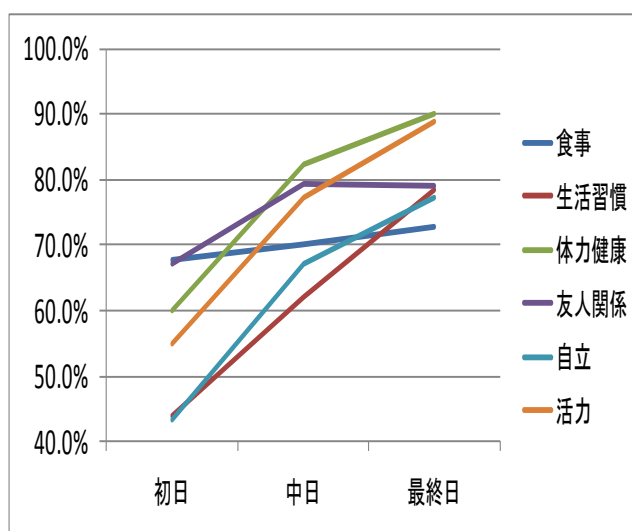
(2) 指導者からみた態度観察調査

【全項目の結果】 ～すべての項目でプラス評価の増加が見られた～

初日・中日・最終日において、プラス評価とマイナス評価の割合を示したものが表1である。

〔表1〕 各項目におけるプラス・マイナスの割合 (プラス評価の変化)

		プラス評価	マイナス評価	合計
食事	初日	67.8%	32.2%	100%
	中日	70.0%	30.0%	100%
	最終日	72.8%	27.2%	100%
	差	5.0%	-5.0%	
生活習慣	初日	43.9%	56.1%	100%
	中日	62.2%	37.8%	100%
	最終日	78.3%	21.7%	100%
	差	34.4%	-34.4%	
体力健康	初日	60.0%	40.0%	100%
	中日	82.2%	17.8%	100%
	最終日	90.0%	10.0%	100%
	差	30.0%	-30.0%	
友人関係	初日	67.2%	32.8%	100%
	中日	79.4%	20.6%	100%
	最終日	78.9%	21.1%	100%
	差	11.7%	-11.7%	
自立	初日	43.3%	56.7%	100%
	中日	67.2%	32.8%	100%
	最終日	77.2%	22.8%	100%
	差	33.9%	-33.9%	
活力	初日	55.0%	45.0%	100%
	中日	77.2%	22.8%	100%
	最終日	88.9%	11.1%	100%
	差	33.9%	-33.9%	



すべての項目でプラス評価が増加し、マイナス評価が減少する結果となった。

活動前は、食事（67.8%）、友人関係（67.2%）、体力健康（60.0%）が高い数値を示し、生活習慣（43.9%）、自立（43.3%）、活力（55.0%）は対照的に低い数値となっている。

初日～中日までの変化をみると、自立（23.9%増）、体力健康（22.2%増）、活力（22.2%増）が大きく伸びており、活動前に最も高かった食事は最も低い2.2%増となっている。

初日～最終日までの変化では、生活習慣（34.4%増）、自立（33.9%増）、活力（33.9%増）が増加傾向が高いが、食事はわずか5.0%増である。また、食事及び生活習慣は、初日～中日、中日～最終日にかけて平均的な上昇がみられるが、その他の項目については、初日～中日までの増加率が圧倒的に高い。

こうしたことから、食事の改善は2週間程度の活動でも難しく、生活習慣については徐々に高い水準に改善することが可能であることが推察される一方、自立や体力健康、活力といった項目については、1週間程度で大きな改善が図れることが推察される。

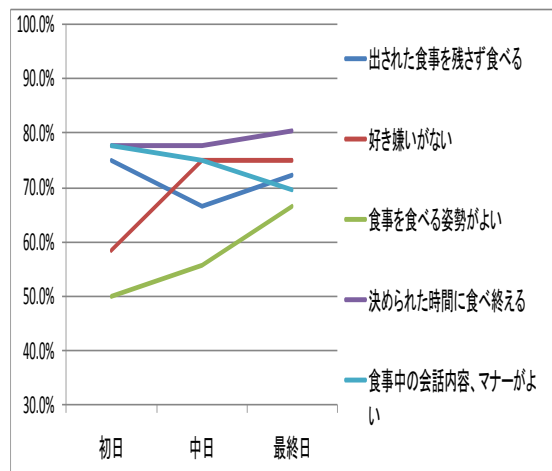
【項目ごとの結果】

6つの項目ごとに、プラス評価とマイナス評価の割合を示したものが表2～表7である。

【表2】食事

			プラス評価			マイナス評価			合計	
			1	2	3	4	5	6		
出された食事を残さず食べる	初日	人	7	6	14	3	5	1	36	
		%	75.0%			25.0%			100%	
	中日	人	5	11	8	8	4	0	36	
		%	66.7%			33.3%			100%	
	最終日	人	7	10	9	6	3	1	36	
		%	72.2%			27.8%			100%	
好き嫌いが無い	初日	人	6	7	8	11	3	1	36	
		%	58.3%			41.7%			100%	
	中日	人	6	7	14	5	2	2	36	
		%	75.0%			25.0%			100%	
	最終日	人	6	14	7	6	2	1	36	
		%	75.0%			25.0%			100%	
食事を食べる姿勢がよい	初日	人	4	5	9	14	3	1	36	
		%	50.0%			50.0%			100%	
	中日	人	3	7	10	10	5	1	36	
		%	55.6%			44.4%			100%	
	最終日	人	4	9	11	8	2	2	36	
		%	66.7%			33.3%			100%	
決められた時間に食べ終える	初日	人	7	5	16	3	4	1	36	
		%	77.8%			22.2%			100%	
	中日	人	4	6	18	4	3	1	36	
		%	77.8%			22.2%			100%	
	最終日	人	7	12	10	4	1	2	36	
		%	80.6%			19.4%			100%	
食事中の会話内容、マナーがよい	初日	人	3	3	22	5	3	0	36	
		%	77.8%			22.2%			100%	
	中日	人	2	6	19	3	6	0	36	
		%	75.0%			25.0%			100%	
	最終日	人	3	11	11	8	2	1	36	
		%	69.4%			30.6%			100%	
5項目全体平均(%)	差	%	-8.3%			8.3%				
		初日	%	67.8%			32.2%			100%
		中日	%	70.0%			30.0%			100%
		最終日	%	72.8%			27.2%			100%

(プラス評価の変化)



食事では、「好き嫌いがない」と「食事を食べる姿勢がよい」が16.7%増と高くなっているが、「食事中的会話内容、マナーがよい」は8.3%減になっている。

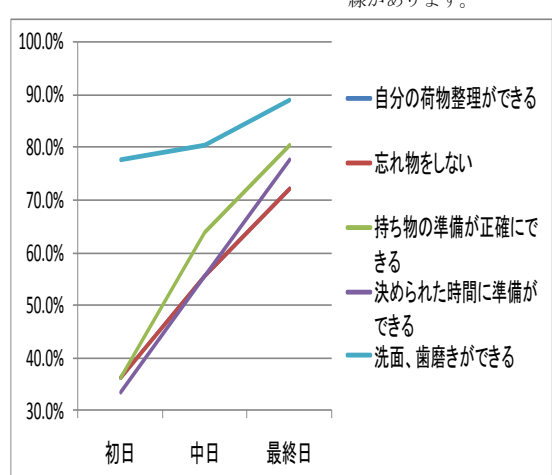
作物の収穫や食事作法指導により、好き嫌いや食べる姿勢等には一定の改善がみられるが、友人関係が密になるにつれて、楽しい雰囲気の中で会話内容等に乱れが生じる場合もあることが推察される。

全体的に大きな伸びはなかったが、こうした活動において重要なのは、好き嫌いの矯正を食事活動に求めるのではなく、様々な食材や伝統料理等地域の食文化を体験する場として位置付けることである。

【表3】生活習慣

			プラス評価			マイナス評価			合計
			1	2	3	4	5	6	
自分の荷物整理ができる	初日	人	1	2	10	21	2	0	36
		%	36.1%			63.9%			100%
	中日	人	1	6	13	14	2	0	36
		%	55.6%			44.4%			100%
	最終日	人	4	10	12	7	3	0	36
		%	72.2%			27.8%			100%
忘れ物をしない	初日	人	1	5	7	23	0	0	36
		%	36.1%			63.9%			100%
	中日	人	2	7	11	15	1	0	36
		%	55.6%			44.4%			100%
	最終日	人	5	9	12	9	1	0	36
		%	72.2%			27.8%			100%
持ち物の準備が正確にできる	初日	人	0	6	7	22	1	0	36
		%	36.1%			63.9%			100%
	中日	人	0	9	14	11	2	0	36
		%	63.9%			36.1%			100%
	最終日	人	9	8	12	4	3	0	36
		%	80.6%			19.4%			100%
決められた時間に準備ができる	初日	人	0	6	6	24	0	0	36
		%	33.3%			66.7%			100%
	中日	人	0	9	11	16	0	0	36
		%	55.6%			44.4%			100%
	最終日	人	4	13	11	6	1	1	36
		%	77.8%			22.2%			100%
洗面、歯磨きができる	初日	人	2	3	23	8	0	0	36
		%	77.8%			22.2%			100%
	中日	人	2	7	20	7	0	0	36
		%	80.6%			19.4%			100%
	最終日	人	5	16	11	3	1	0	36
		%	88.9%			11.1%			100%
5項目全体平均(%)	初日	%	43.9%			56.1%			100%
		%	62.2%			37.8%			100%
	最終日	%	78.3%			21.7%			100%
		%	34.4%			-34.4%			

(プラス評価の変化)



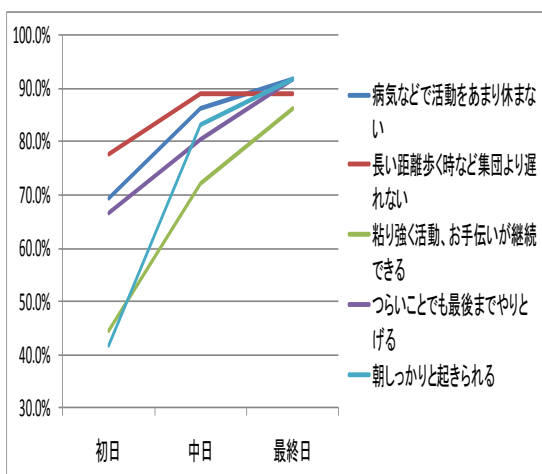
生活習慣では、「洗面、歯磨きができる」が活動前最も高く、既に家庭での習慣が身についていることがわかる。

他の項目については、どれも36%～44%の高い伸び率を示しており、集団生活の中での確かな生活指導を心がけることで、基本的な生活習慣の取得と、集団を見据えた、自分から行動する心の醸成が成されていることが推察される。

〔表 4〕体力健康

		プラス評価			マイナス評価			合計
		1	2	3	4	5	6	
病気などで活動をあまり休まない	初日	人	0	8	17	11	0	36
		%	69.4%			30.6%		100%
	中日	人	0	18	13	5	0	36
		%	86.1%			13.9%		100%
	最終日	人	15	7	11	3	0	36
長い距離歩く時など集団より遅れない		%	91.7%			8.3%		100%
	差	%	22.2%			-22.2%		
	初日	人	0	8	20	6	2	36
		%	77.8%			22.2%		100%
	中日	人	0	6	26	3	1	36
粘り強く活動、お手伝いができる		%	88.9%			11.1%		100%
	最終日	人	5	13	14	4	0	36
		%	88.9%			11.1%		100%
	差	%	11.1%			-11.1%		
	初日	人	0	1	15	20	0	36
つらいことも最後までやりとげる		%	44.4%			55.6%		100%
	中日	人	1	5	20	9	1	36
		%	72.2%			27.8%		100%
	最終日	人	10	9	12	5	0	36
		%	86.1%			13.9%		100%
朝しっかりと起きられる	差	%	41.7%			-41.7%		
	初日	人	0	0	24	12	0	36
		%	66.7%			33.3%		100%
	中日	人	2	7	20	6	1	36
		%	80.6%			19.4%		100%
5項目全体平均(%)	最終日	人	11	7	15	2	1	36
		%	91.7%			8.3%		100%
	差	%	25.0%			-25.0%		
	初日	人	0	0	15	21	0	36
		%	41.7%			58.3%		100%
朝しっかりと起きられる	中日	人	0	5	25	6	0	36
		%	83.3%			16.7%		100%
	最終日	人	5	14	14	3	0	36
		%	91.7%			8.3%		100%
	差	%	50.0%			-50.0%		
5項目全体平均(%)	初日	%	60.0%			40.0%		100%
	中日	%	82.2%			17.8%		100%
	最終日	%	90.0%			10.0%		100%
	差	%	30.0%			-30.0%		

(プラス評価の変化)



体力健康では、「朝しっかりと起きられる」（41.7%）、「粘り強く活動、お手伝いができる」（44.4%）が初日に際立って数値が低い。一方、増加率をみるとこれらの項目はそれぞれ50.0%増、41.7%増と他の項目に比べて高い。

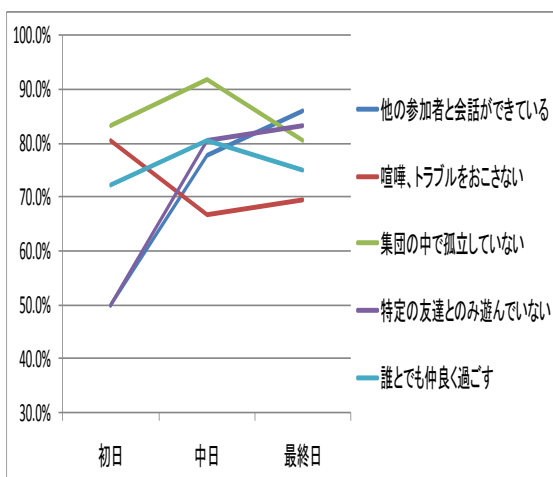
「朝しっかりと起きられる」については、経験者が多い中でも、普段の生活から活動に順

応するまで時間を要することを示し、「粘り強く活動、お手伝いができる」の高い伸びとあわせて考えても、普段の生活において、こうした事に慣れていない半面、集団生活や体験活動においては、規則正しい生活と粘り強く取り組む姿勢が必要であり、それに期間を通して順応していると推察できる。

〔表 5〕友人関係

		プラス評価			マイナス評価			合計
		1	2	3	4	5	6	
他の参加者と会話ができています	初日	人	1	7	10	16	2	36
		%	50.0%			50.0%		100%
	中日	人	1	8	19	8	0	36
		%	77.8%			22.2%		100%
	最終日	人	2	19	10	4	1	36
喧嘩、トラブルをおこさない		%	86.1%			13.9%		100%
	差	%	36.1%			-36.1%		
	初日	人	0	4	25	6	1	36
		%	80.6%			19.4%		100%
	中日	人	2	11	11	10	2	36
集団の中で孤立していない		%	66.7%			33.3%		100%
	最終日	人	5	7	13	9	2	36
		%	69.4%			30.6%		100%
	差	%	-11.1%			11.1%		
	初日	人	0	7	23	5	1	36
特定の友達とのみ遊んでいない		%	83.3%			16.7%		100%
	中日	人	1	9	23	3	0	36
		%	91.7%			8.3%		100%
	最終日	人	4	16	9	5	2	36
		%	80.6%			19.4%		100%
誰とでも仲良く過ごす	差	%	-2.8%			2.8%		
	初日	人	0	2	16	18	0	36
		%	50.0%			50.0%		100%
	中日	人	0	4	25	7	0	36
		%	80.6%			19.4%		100%
5項目全体平均(%)	最終日	人	5	11	14	3	3	36
		%	83.3%			16.7%		100%
	差	%	33.3%			-33.3%		
	初日	人	0	3	23	9	1	36
		%	72.2%			27.8%		100%
誰とでも仲良く過ごす	中日	人	0	4	25	7	0	36
		%	80.6%			19.4%		100%
	最終日	人	2	14	11	5	4	36
		%	75.0%			25.0%		100%
	差	%	2.8%			-2.8%		
5項目全体平均(%)	初日	%	67.2%			32.8%		100%
	中日	%	79.4%			20.6%		100%
	最終日	%	78.9%			21.1%		100%
	差	%	11.7%			-11.7%		

(プラス評価の変化)



友人関係では、「喧嘩、トラブルをおこさない」が減少傾向にあり、「集団の中で孤立していない」、「誰とでも仲良く過ごす」は中日までは上昇しているが、最終日にかけては減少している。

一方、「他の参加者と会話ができています」（36.1%増）、「特定の友達とのみ遊んでいない」（33.3%増）は中日にかけて

急増し、その後緩やかに増加している。

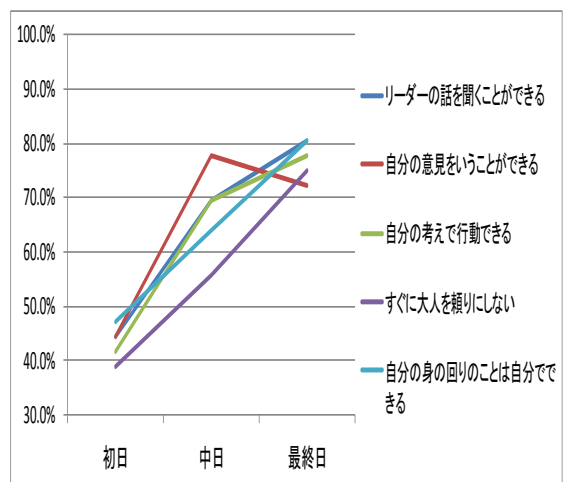
このことから、中日までは会話を通して関係が深まる中で自己を発露し、結果的にトラブルが増加する傾向もあるが、それ以降は、話し合い等を通して互いに認め合うようになり、トラブルも減少し、一見孤立傾向があるようにみられるが、個々の興味関心が許される環境に変化していることが推察される。

[表6] 自立

			プラス評価			マイナス評価			合計	
			1	2	3	4	5	6		
リーダーの話を知ることができる	初日	人	1	6	9	18	2	0	36	
		%	44.4%			55.6%			100%	
	中日	人	2	11	12	8	3	0	36	
		%	69.4%			30.6%			100%	
	最終日	人	7	8	14	6	1	0	36	
		%	80.6%			19.4%			100%	
自分の意見をいうことができる	初日	人	0	3	13	18	2	0	36	
		%	44.4%			55.6%			100%	
	中日	人	2	5	21	7	1	0	36	
		%	77.8%			22.2%			100%	
	最終日	人	4	10	12	8	2	0	36	
		%	72.2%			27.8%			100%	
自分の考えで行動できる	初日	人	0	3	12	19	2	0	36	
		%	41.7%			58.3%			100%	
	中日	人	1	2	22	11	0	0	36	
		%	69.4%			30.6%			100%	
	最終日	人	2	11	15	8	0	0	36	
		%	77.8%			22.2%			100%	
すぐに大人を頼りにしない	初日	人	0	3	11	22	0	0	36	
		%	38.9%			61.1%			100%	
	中日	人	0	1	19	15	1	0	36	
		%	55.6%			44.4%			100%	
	最終日	人	3	15	9	7	2	0	36	
		%	75.0%			25.0%			100%	
自分の身の回りのことは自分でできる	初日	人	1	4	12	19	0	0	36	
		%	47.2%			52.8%			100%	
	中日	人	1	6	16	13	0	0	36	
		%	63.9%			36.1%			100%	
	最終日	人	5	10	14	7	0	0	36	
		%	80.6%			19.4%			100%	
5項目全体平均(%)	差	%	33.3%			-33.3%				
		初日	%	43.3%			56.7%			100%
		中日	%	67.2%			32.8%			100%
		最終日	%	77.2%			22.8%			100%
	差	%	33.9%			-33.9%				

自立に関しては総合的に33.9%増という高い伸び率を示しているため、こうした活動に参加することは、自立心の向上と集団における他人への配慮等の力の醸成に役立つことが推察される。

(プラス評価の変化)



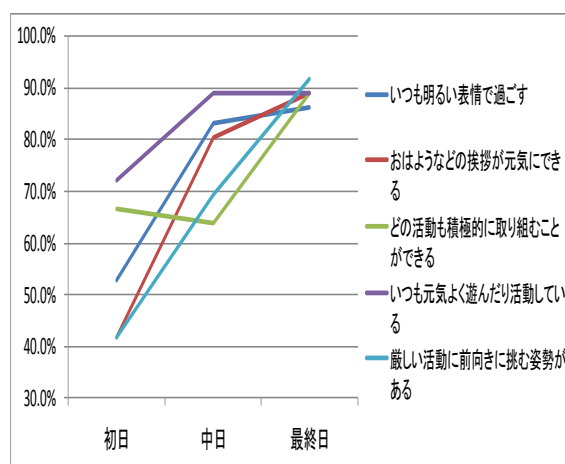
自立では、初日～最終日にかけて、全体的に27%～36%程度の増加傾向がみられるが、「自分の意見をいうことができる」だけは、中日～最終日にかけて5.6%の減少傾向がみられる。

このことは、長期間の生活を通して、徐々に互いの意見を尊重する雰囲気が出来上がり、全体や他者への配慮から、状況に応じて個々が対応できていることが伺える。

[表7] 活力

			プラス評価			マイナス評価			合計	
			1	2	3	4	5	6		
いつも明るい表情で過ごす	初日	人	1	10	8	15	2	0	36	
		%	52.8%			47.2%			100%	
	中日	人	2	11	17	6	0	0	36	
		%	83.3%			16.7%			100%	
	最終日	人	4	16	11	4	1	0	36	
		%	86.1%			13.9%			100%	
おはようなどの挨拶が元気になる	初日	人	0	5	10	21	0	0	36	
		%	41.7%			58.3%			100%	
	中日	人	0	2	27	7	0	0	36	
		%	80.6%			19.4%			100%	
	最終日	人	5	11	16	3	1	0	36	
		%	88.9%			11.1%			100%	
どの活動も積極的に取り組むことができる	初日	人	0	3	21	12	0	0	36	
		%	66.7%			33.3%			100%	
	中日	人	1	9	13	13	0	0	36	
		%	63.9%			36.1%			100%	
	最終日	人	8	11	13	4	0	0	36	
		%	88.9%			11.1%			100%	
いつも元気よく遊んだり活動している	初日	人	0	6	20	10	0	0	36	
		%	72.2%			27.8%			100%	
	中日	人	1	9	22	4	0	0	36	
		%	88.9%			11.1%			100%	
	最終日	人	4	17	11	4	0	0	36	
		%	88.9%			11.1%			100%	
厳しい活動に前向きに挑む姿勢がある	初日	人	0	2	13	21	0	0	36	
		%	41.7%			58.3%			100%	
	中日	人	0	2	23	11	0	0	36	
		%	69.4%			30.6%			100%	
	最終日	人	4	18	11	3	0	0	36	
		%	91.7%			8.3%			100%	
5項目全体平均(%)	差	%	50.0%			-50.0%				
		初日	%	55.0%			45.0%			100%
		中日	%	77.2%			22.8%			100%
		最終日	%	88.9%			11.1%			100%
	差	%	33.9%			-33.9%				

(プラス評価の変化)



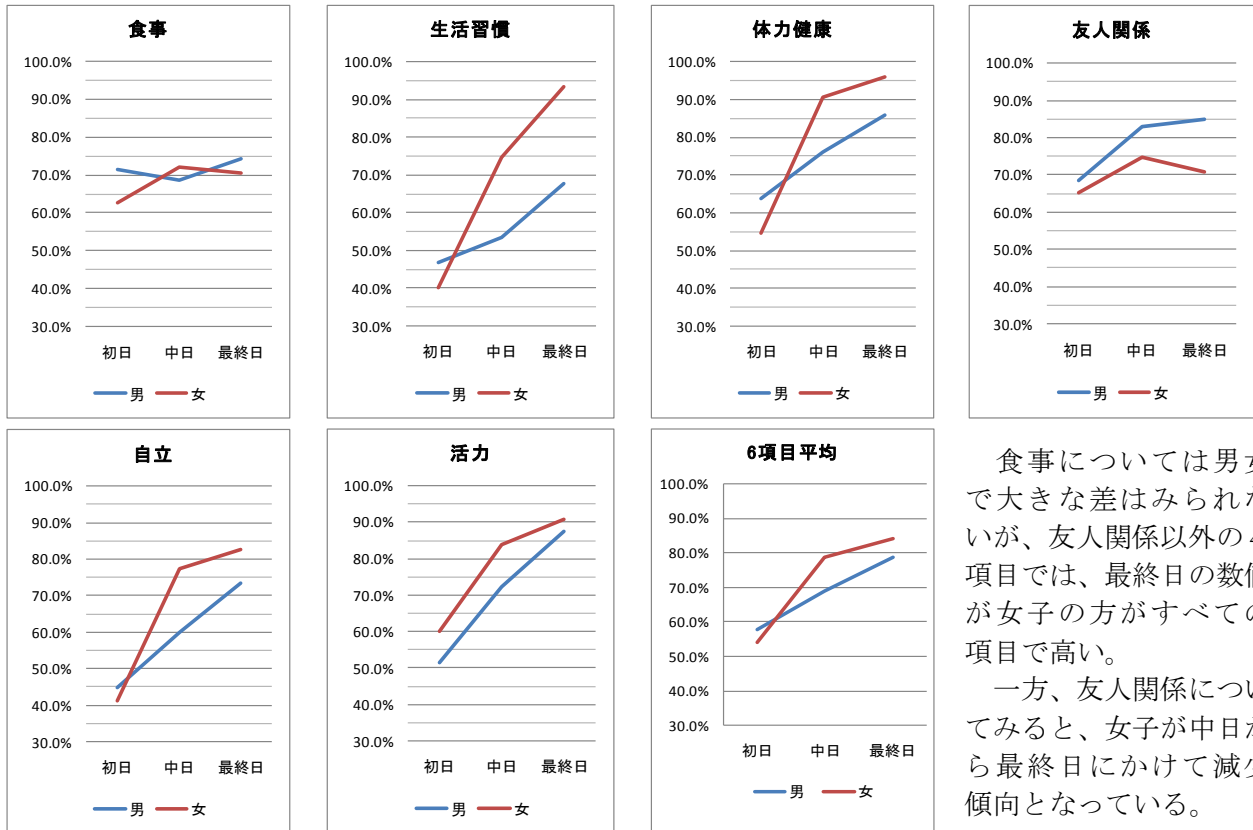
活力では、「おはようなどの挨拶が元気になる」と「厳しい活動に前向きに挑む姿勢がある」が、初日に41.7%と低くなっており、普段の生活の中でこうした習慣が不足していることが伺える。また、「どの活動も積極的に取り組むことができる」は、中日以降に大きな伸びを示している。

これは、活動開始から数日は、周りの様子

を探ったり試行錯誤している状態だが、それ以降は個々に興味関心が芽生え、積極的に活動に取り組むようになることが伺える。いずれにしろ、最終日にはどの項目も90%近い数値となっており、全体でも33.9%増と高い数値になっているため、長期間のこうした活動は、子どもの活力を増加させ、生き生きと生活する土台作りに役立つと推察される。

※厳しい活動とは、登山、歩く活動、高度な自炊活動等を示す

【男女別の結果】 ～全体的に女子は数値が高く、男子は緩やかに上昇する～
各項目の男女別プラス評価の変化量を示したのが下記の図である。

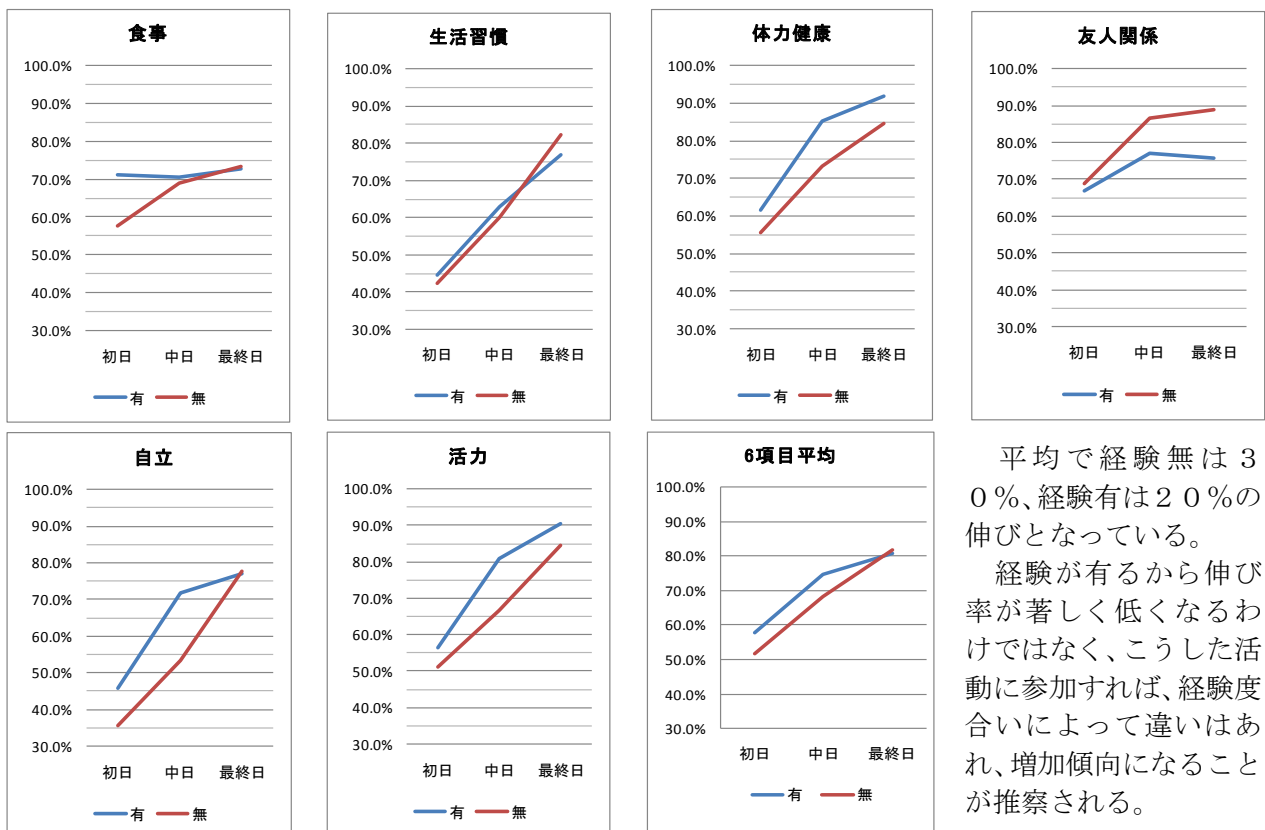


食事については男女で大きな差はみられないが、友人関係以外の4項目では、最終日の数値が女子の方がすべての項目で高い。

一方、友人関係についてみると、女子が中日から最終日にかけて減少傾向となっている。

これは決して関係が悪化したということではなく、女子が他者との関係について表面的な繋がりよりも中身のある繋がりを求め、互いに考えを交わす中で自分のポジションを確立していると考えられる。
“みんな仲良く”が強制ではなく、時には一人で楽しむことができる環境にあったことが伺える。

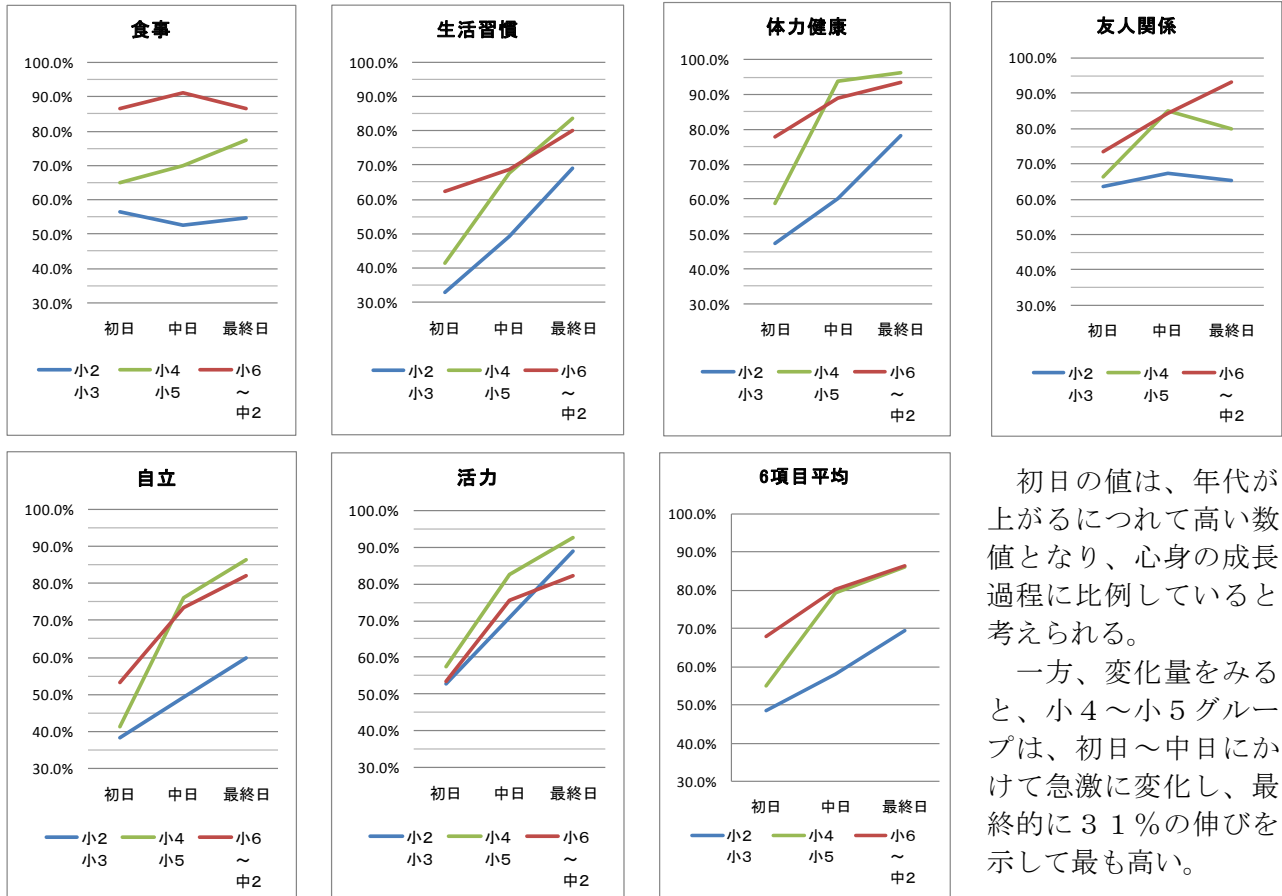
【経験別の結果】 ～経験の有無に関わらず総じて上昇傾向がある～
各項目の経験別プラス評価の変化量を示したのが下記の図である。



平均で経験無は30%、経験有は20%の伸びとなっている。

経験が有るから伸び率が著しく低くなるわけではなく、こうした活動に参加すれば、経験度合いによって違いはあれ、増加傾向になることが推察される。

【年齢別の結果】 ～最も変化の多い年代は、小4～小5グループ～
各項目の年齢別プラス評価の変化量を示したのが下記の図である。



他の2グループが緩やかに変化し、全体の変化量も20%前後であることを考えると、こうした体験が最も大きな影響を与えたのは、小4～小5グループであったと推察される。

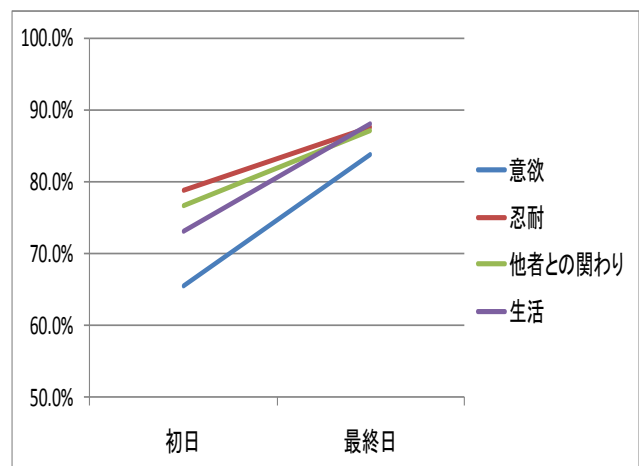
(3) 参加者自らの自己分析調査

参加者自らが自己の考えや行動を振り返って調査した結果が表8である。

[表8] 4項目全体

		プラス評価	マイナス評価	合計
意欲	初日	65.5%	34.5%	100%
	最終日	83.7%	16.3%	100%
	差	18.2%	-18.2%	
忍耐	初日	78.7%	21.3%	100%
	最終日	87.5%	12.5%	100%
	差	8.8%	-8.8%	
他者との関わり	初日	76.7%	23.3%	100%
	最終日	87.2%	12.7%	100%
	差	10.5%	-10.6%	
生活	初日	73.0%	27.0%	100%
	最終日	88.1%	11.9%	100%
	差	15.1%	-15.1%	

(プラス評価の変化)



全項目で上昇傾向にあり、特に意欲(18.2%増)、生活(15.1%増)が高い伸びを示している。対象者自らが評価する調査であるため、一概には判断できないが、少なくとも子ども達がこうした活動に参加する中で、実感として「自分が成長した」と感じていることが推察される。

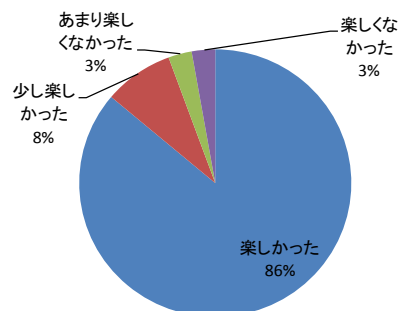
活動において、参加者自身がプラス面の実感を得られなかった場合、次回に繋がる意欲を削ぐ結果となることも考えられるため、本活動には一定の成功があったことが伺える。

（４）活動後アンケートから

活動後に対象者に対して下記３問のアンケートを実施した。その結果が表９～１１である

【Ｑ１ 活動はたのしかったですか】 ～８６％が楽しかったと回答～

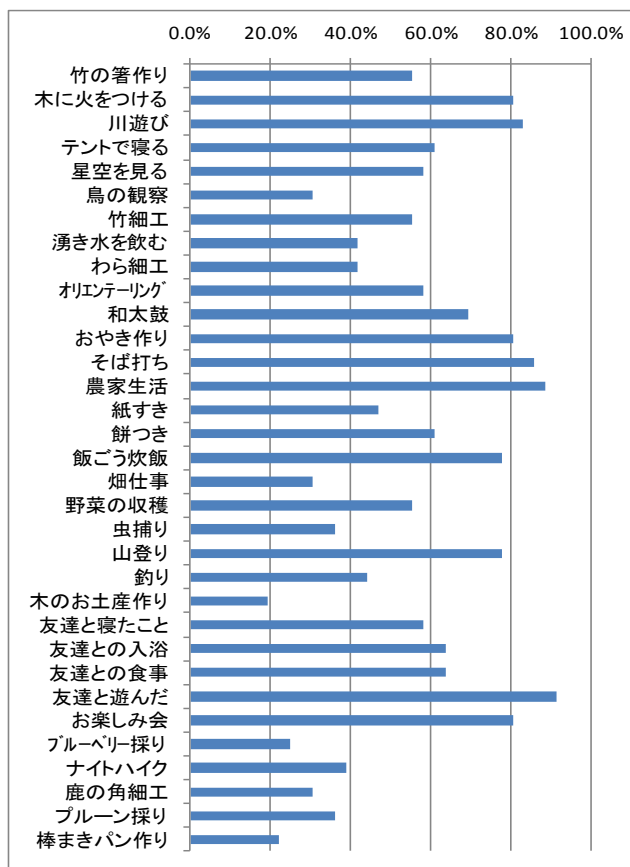
	人数	%
楽しかった	31	86
少し楽しかった	3	8
あまり楽しくなかった	1	3
楽しくなかった	1	3
合計	36	100



「楽しかった」と「少し楽しかった」を合計すると、
94％の参加者が楽しかったと回答した。

活動経験者が多かった活動だが、それぞれに楽しみをみつけて、活動を楽しんだことが伺える。

【Ｑ２ たのしかった活動はどれですか】 ～農家生活等の地域活動と友人との関わりが高い値に～



様々な活動内容の中で、特に参加者から高い評価を受けたのは、友達と遊んだこと（91.7％）、農家生活（88.9％）、そば打ち（86.1％）、川遊び（83.3％）、おやき作り（80.6％）、木に火をつける（80.6％）、お楽しみ会（80.6％）、飯ごう炊飯（77.8％）、山登り（77.8％）などであった。

第1位の「友達と遊んだ」に代表されるように、生活を通して友人と関わった項目は、どれも58％以上の高い数値を示しており、こうした活動において、体験内容もさることながら、仲間との関わりが強く心に残っていることが伺える。

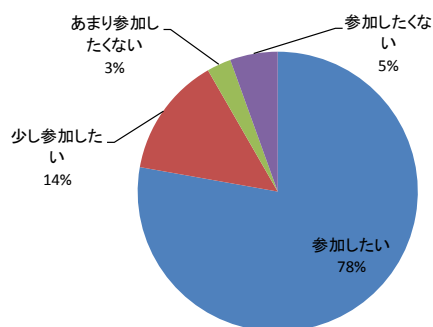
また、「農家生活」「そば打ち」「おやき作り」等は、どれも地域の方々との触れ合いが多く、センターでの活動よりも、田舎の暖かい雰囲気に触れることを子ども達がとても楽しみにしていることがわかる。

野外活動の分野においては、「火つけ」「川遊び」「飯ごう炊飯」といった体験活動でポピュラーな活動が高い数値を示す一方で、「山登り」や「星空を見る」等の達成感や連帯感を得たり、感動を得たりする活動も心に残っていることが推察される。

【Ｑ３ また参加したいですか】

参加したい（78％）、少し参加したい（14％）を合わせると92％の参加者が次回も参加してみたいと回答している。活動で得た体験、喜び、楽しさが次回に繋がっていることが伺える。

継続して活動を実施していくためには、十分できなかった体験を次回に挑戦させたり、今回の体験をより発展的に深めていくような活動プログラムの構築が、参加者の声に応えることになると考えられる。



2. 保護者の聞き取りから

活動後にアンケート調査を実施し、保護者から帰宅後の変化や気付いた点等回答を得た。(抜粋)

帰宅時に体が引き締まって、顔つきも変わって見えました。 また、言葉遣いも良くなり、以前は友達のことを「あいつ」と言っていたのがなくなりました。	小3男子
色々な年代の子ども達と一緒に暮らす中で、年上としての責任感などが出できたと言き、とても嬉しく思いました。 自分なりに色々な活動に積極的に取り組めたようで、自信がついたのか、良い顔つきで帰宅しました。 程よく自由ということに共感しました。また、違う価値観を知ること、マナーを知ることがとても良いと思います。	小6男子
「登山は疲れたけど朝日が綺麗だった」と口にしています。 一生懸命何かをやる楽しさや喜びを少しは感じてくれたようです。	小5男子
普段あまり話さない子が「楽しかった」「また行きたい」と言っています。 まだ実感として何が良かったのかわかりませんが、徐々に出てくるものなのだろうと思います。 自分で何でもさせる、重い荷物も自分で持たせる、荷物は自分で用意させるといった「自分の事は自分でする」ということは、とても大切だと思っています。	小6女子
子どもにとって未知の世界に飛び込んだ15日間で、全てが糧となり、大きく成長できたことが良かったです。 リーダーの方が、一人一人をよく見ており、とても有り難く思いました。	小3男子 小6男子

家族と離れての15日間の活動は、保護者とすれば心配な面も多かったようだが、体力面、精神面で目に見えて変化のあった事や、心の奥に体験として蓄積された事を評価している意見が多かった。

3. 子ども達の日記から

活動中は毎日日記を書き、それにリーダーが返事を書くことによって、一日の振り返りと明日への示唆、相互のコミュニケーションの向上を図った。

今日はセンターの周りを探検し、農家の畑で採れたての野菜を食べた。農家の野菜は生で食べても美味しく、特にキュウリは最高でした！

飯ごう炊飯をした。最初はかまどを作り、次に薪を集めて、最後にマッチで火をつけました。

5回連続で失敗したけど、6回目について嬉しかった。

そば打ちで一番難しかったのは、柔らかくしてから長い棒で伸ばしていくところで、農家の人はとても上手でした。頑張って作ったおそばはとても美味しかった。

今日僕はブルーンがりに行った。センターから歩いていったので、登り坂や下り坂が沢山あって疲れた。でもそのかわり、ブルーンがとても美味しかった。

川に仕掛けた罠をとりに行った。ウナギを期待したけど、捕れたのはウグイやヤマメ、ナマズだった。塩焼きにしたらとても美味しかった。

今日は沢山歩きました。途中、ホタルの幼虫とか、三角形の石など沢山見つけました。

ゴールする前に、周りの風景をスケッチしました。

4. 子ども達の感想文から

活動最終日に、子ども達に感想文を書いてもらった。個々の興味関心に沿った内容となっており、子ども一人一人の感じたこと、心に残ったことなどが表れている。

「農家生活」(小3男子)

川あそび、キャンプ、プルーンがり・・・色々あるけどその中で一番楽しかったのは、農家生活です。2日だけだけど楽しいことだらけです。

農家に行く時、途中で別れ道があって、迷いながらやっと着きました。おやつがスイカの1/6でとても美味しかったです。次の日は、ブルーベリーがりに行きました。トラックの荷台に全員乗って行きました。ブルーベリーはとても甘かったです。

「冒険コース」(小3男子)

僕は冒険コースが楽しかった。

冒険コースに行く時はドキドキしました。途中でカモシカを見ました。カモシカは早くとても格好良かったです。途中の崖を登る時は、僕も早く登れてうれしかったです。

一番感動したのは、カモシカに会えたことです。

「2週間で楽しかった事」(小4女子)

この2週間で楽しかった事やうれしかった事が沢山あり、数え切れないくらい遊びました。

その中でも一番良かったのは『登山』です。登山はとても苦しかったけど、日の出はとても綺麗でした。登っている時はとても大変で「もうこんなの嫌だ!」って思っていたんですが、登りきったら「良かった〜!」って思いました。

下山の時も大変で、みんな「しんど〜い」って言っていました。でも下に着いたら、みんなで「頑張ったぞ〜」って言いました。

2番目はキャンプです。キャンプの時、火がぜんぜんつかなくて、すごくこまっていました。でも最後にリーダーがコツを教えてくれて火がつきました。嬉しかったです。

「初めての活動」(小3女子)

私にとっては初めての活動参加でした。集合した時はとてもドキドキしました。

電車の中で「駅に着いたら1時間くらい歩くよ」と言われて、とてもビックリしました。歩くのはとても疲れたけど、木イチゴが沢山あったので、沢山食べました。

すごく美味しかったです。

「2週間の一文字」(小6男子)

この2週間を一文字に表すと「歩」でした。

どこへ行くにも歩いていきました。そば打ちにも歩き、プルーンがりにも5kmの距離を歩いていきました。しかも八坂は名前の通り坂が多いです。上り坂も下り坂も沢山あります。腰も疲れて痛くて辛かったです。

でも達成感が非常にありました。歩くのもいいなと思いました。



Ⅲ 活動のあり方と提言

実践活動や調査結果、運営委員会での考察、アンケートの意見等を踏まえ、地域連携型長期自然・生活体験活動を展開する上で重要なポイント、その意義を以下のとおりまとめた。

(1) 生活リズムの構築

～ 規則正しい生活は心身の健康に役立つ ～

長期間の集団生活を伴ったこうした活動では、非日常的な生活の中で体調を崩す場合もある。また、生活の乱れは、人間関係や精神状態に大きく影響するものと考えられる。

そこで、活動開始から数日間は、特に生活リズムの構築に力を入れるべきである。

時間的な規則性は勿論のこと、基本的な生活習慣の習得を心がけ、一人一人が意欲を持って規則正しい生活に取り組める状態を作り上げることが必要である。

また、集団生活での役割分担を決めるなどし、「協力することの大切さ」や「みんなで生活している」という意識を高めることが、その後の人間関係のスムーズな構築に役立つと考えられる。

生活が安定した子どもは、心身共に健康になり、活動にも積極的に取り組むようになる。

(2) 集団体験と個別体験

～ 本当にやりたいことを見つけ、個々の興味関心を伸ばすには長期活動が最適 ～

体験を大きく分類するならば「集団体験」と「個別体験」に分かれることを意識しなければならない。

集団体験とは、みんなで同じ事を体験する場面であり、一つの事象を深く追求するような体験内容ではなく、広く様々な事象を体験させることが目的である。その中で、仲間との協力や自己の抑制等も自ずと体験していくことになる。

一方、個別体験とは集団体験を通して芽生える、個々の興味関心を伸ばす体験のことである。

子ども達の興味関心は、個々の成長過程、発達段階等によって一人一人違って来る。それを集団体験で細かく取り上げることは難しい。そこで、個々の興味関心を発展的に行えるような活動を組み込んでいくのである。

本調査の「活力」の変容結果をみても、開始から1週間までは、積極的に活動に取り組む姿勢の伸びはあまりみられない。しかし、それ以降は大きな伸びを示しており、自分のやりたいことがみつき、個々の興味関心で積極的に活動に取り組んでいることがわかる。

(3) 本物を体験させることの大切さ

～ 本物とは何か、本物こそ最大の教育力を発揮する ～

こうした活動では様々な体験を子ども達は得るだろう。しかし大切なのは「その体験は本物だったか」という問いかけを指導者は常に自分にすることである。

子どもの体験をより本物に近い形にするためには、まず指導者は裏方に徹することである。

キャンプでの夕食作りの際、子ども達が火つけに四苦八苦していた時、指導者がさっと火をつけてしまったら、計画どおりに事は運ぶだろうが、それは本物ではないと考えなくてはいけない。失敗し、試行錯誤し、時には悔しい思いをしても、最後までやり遂げることが本物である。

また、地域の人材を活用することで、より本物に近づくことができる。

農作業や漬物作り、狩猟体験などはいいい例で、実際に生業として携わる地域住民が、子ども達に話しかけ、手取り足取り指導する方が、より本物になるのである。

指導者は裏方に徹し、子ども達に本物を提供するために、人材や体験材を見極めてプログラムを企画する、コーディネーター的役割を担う必要がある。

～ 見る、触る、聞く、食べる、嗅ぐ ～

心に強烈な印象を与える体験とは、「食べた」「見た」「触った」等の五感に働きかける体験である。これは話を聞いたり、写真で見たりするのとは圧倒的に説得力が違ふ。また、こうした体験は、大人になっても心の中に刻み込まれ、成長過程における原風景として残っていく。

道端に木イチゴがあれば食べてみる。動物の毛皮に触ってみる。冷たい湧き水を飲んでみる等、五感に響く活動が、子どもにとって素晴らしい体験となる。

～ 地域家庭ホームステイの活用 ～

地域で活動する上で地域家庭にホームステイする事ほど有意義な活動はない。

地域文化は多かれ少なかれ家庭の中に溢れているものであるし、センターでの集団生活と違って、少人数に分かれてホームステイをすれば、家庭的な雰囲気の中で子ども達もゆっくりと活動することが出来る。これは子ども達に「ふるさと」を疑似体験させることになる。

一方地域のとても有益な点が多い。

子どもを預かることによって地域の理解が進むと共に、第2のふるさととしての交流にも発展する可能性を秘めている。

（４）活動プログラムの企画にあたって

～ 自由時間の大切さ ～

子ども向けの体験活動は、全国各地で数多く実施されているが、1泊から長くても4泊程度の活動が最も多い。そうした活動では、日程的に活動プログラムをこなすだけで大変といった状況も少なくない。また、多くは個別体験を取り入れることは難しく、集団体験を基礎とした企画になっている。

本活動のような15日間に及ぶ長期活動の場合は、時間的余裕を生活の中に取り入れて、出来れば自由時間を多く設定することが望ましいと考える。

現代の子どもは外での遊び方、自然との付き合い方を知らないといわれる事もあるが、それはそのような環境が不足しているからで、環境を与え、次第に慣れてくればいくらかでも遊んでいることができる。

自由時間にこそ、子ども一人一人の思いが表れていることを念頭に、次から次へとプログラムをこなすような企画は避けなければならない。与えられた体験よりも自分で見つけ出した体験の方が楽しい。

但し、野放しの自由時間は危険を伴う為やってはいけない。場合によっては、ある程度の活動や遊びの種を指導者が用意し、動機づけを行ってサポートすることも必要だろう。

（５）長期活動の利点を生かす

～ 自然な人間関係の構築ができる ～

今回の調査を通して、参加者相互の人間関係が、自然な形となって形成されていることがわかった。

P10表5の友人関係の結果をみると、「喧嘩、トラブルをおこさない」は中日に減少し、一方で、「誰とでも仲良く過ごす」「集団の中で孤立していない」は中日を頂点に最終日は減少している。また、P11表6の自立の結果でも、「自分の意見をいうことができる」が同じように最終日に減少している。

更に、P12【男女別の結果】の友人関係では女子が最終日に減少し、【経験別の結果】では経験有のグループが最終日に減少している。

これらの結果を分析すると、次のようなことが考えられる。

活動初日～中日にかけては、初めて生活を共にする集団の中で、お互いを知るためにも活発な交流が生まれ、「誰とでも仲良く過ごす」「集団の中で孤立していない」「自分の意見をいうことができる」等は上昇傾向となっている。しかし、長期の集団生活となると、互いに自己を発露する過程での個性のぶつかり合い等も起こり、それが「喧嘩、トラブルをおこさない」の減少や男女別等の友人関係の減少に繋がっていると推察できる。

ただ、この事は非常に健全な人間関係の構築が行われていると捉えることは出来ないだろうか。

必ずしも全ての他者と仲良くするのが良い人間関係とは言えず、むしろ15日間の活動をとおして、気の合う仲間と過ごしたり、一人の時間を持つといった、当たり前の人間関係が許される空間が出来上がったと考えるべきである。

短期間の活動では、表面的な付き合いに留まり、より深い中身のある人付き合いは生まれにくい。長期間だからこそ、それが可能となるのである。

(6) 指導者の役割

～ 立場に応じた役割分担 ～

指導者は大きく分けて二つに分かれる。

一つは、実際に子どもを指導するリーダーといわれる役割。もう一つは、活動を円滑に実施していくために必要な用具管理や施設整備等を担当するスタッフである。

更にリーダーは、全体を統括する指導者と、生活面や活動等個別に子ども達に関わる指導者、健康管理を行う指導者等細かい役割に分類される。また、専門的指導を要する活動では、前述のように地域の人材を生かし、専門指導者を地域から調達しなければならない。

【まとめ】

今回、長期自然・生活体験活動を通して、多くの地域住民の協力を得ることが出来た。

地域で生活をしてきた人々の言葉や態度は、子ども達に多くの驚きと感銘を与え、日本古来の生活文化や風習に触れることができた。

キャンプや川遊び、登山といった野外体験的プログラムも、子ども達に達成感や協力、感動等の体験を与えてくれるが、今最も子ども達に必要なのは、自分以外の人との関わりを認識し、社会で生きていくための力を、成長する過程で上手に構築できる力を身につけることだろう。

そうした考えに立てば、日本古来の地域文化が残る農山村での活動は、人との触れ合いや協力といった大切な地域社会のあるべき姿を子ども達に提供してくれる。

また、長期間の活動は、子ども達が互いを理解し、時にはぶつかり合いを重ねても、その先に自然な人間関係を構築するだけの時間と生活がある。

従って、地域の歴史や文化・人材を活用し、長期間の集団生活を行う活動は、子ども達にとって必要な体験であり、今後も全国に広めていく必要があるだろう。

平成22年度文部科学省委託事業

青少年体験活動総合プラン（子ども・若者育成支援のための体験活動推進事業）

**地域連携型長期自然・生活体験 in 信州「やさか長期自然体験」
調査報告書**

発行：財団法人育てる会

〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-6-7 朝日生命ビル5F

tel: 0422-56-0151 fax: 0422-56-0351 mail: mado@sodateru.or.jp

<http://www.sodateru.or.jp>

印刷：株式会社文伸